神呪のネクタール
しんじゅ
原作
吉野弘幸
漫画
佐藤健悦
5
Champion RED Comics
RED

5
神呪のネクタール
しんじゅ
原作 吉野弘幸
漫画 佐藤健悦
RED

前巻までのあらすじ

ダーラ共和国の秘密を探るため、人魚伝説の残る島・ネレイア島を訪れたカイ一行。カイはそこで、人魚の末裔と言われる種族・ネレイデスの少女シエラと出会う。潜入したダーラの駐屯地で、この島の領主、ブレド・レガンに追われ、海に飛び込んだカイとシエラは島の迷宮に迷い込んだが…!?

至ランドルール地方
(アルビオン・ダーラetc.)

《マラガ亜大陸》

旧アダール
侯国

ガランドア

ジンガ

《ローレンシア大陸》

登場人物

カイ・ワタリ

異世界に召喚された"稀人"。"呪乳"の力を得て無敵の戦士に変身する。サクラの義兄・グレイの遺志を継ぎ、サクラを守ろうと決意する。

サクラ・シャクンティーラ・アドニエラ

ダーラ共和国に滅ぼされたアダール侯国の姫。乳房に神秘の力を宿す"神妃"。その力のため、ダーラ共和国に追われる身となる。

シエラ

人魚の末裔という伝説がある民、ネレイデスの生き残り。ダーラに父を殺される。ネレイデスを救う"蒼海の秘宝"を求め、迷宮に潜るが…。

ブレド・レガン

ダーラ共和国ダトラ総督、ネレイア島領主。グレイの暗殺を命じた。この島で麻薬を生産し、それによって特殊な兵を作ろうとしている。

目次
CONTENTS

初出／チャンピオンRED 2018年5月号～9月号

第17話／迷宮巡り

だがその前に
〝迷宮に行く〟――と

そうヤツらは
言っていたんだな?

は
複数の兵が聞いて
おりました

了解した
捜索を続けろ
下がれ

だがお前が見たというグレイの死体はそれ以後確認出来ていない

それは…

ダクリス
お前を疑うわけではない
ヒューマンでなければ不可能とされる呪装をしている以上
ほぼ確実にスリーアに出たのは偽者だろう
――だが
グレイが死んだという証拠が無い以上
そいつが偽者であると証明する手段もない
つまり―――
つまり…？
本人が主張し周囲が認める限り
ヤツはグレイで在り続けるということだ

──『迷宮に眠る〝蒼海の秘宝〟には
虐げられたネレイデスの民を
解放できる力がある』

その言葉を確かめるために
おれとシエラは迷宮に挑んだのだが
──

ネレイドの迷宮
─第二階層─

ベギャ

……!!!
動いちゃダメ!!!
カイ!!!

ジャ
バ
チャ
ドッ
あのスライムは
動いているものを
捕らえるの
――大丈夫？
あ…ああ
助かったよ
たた…

ごめんよ
説明しただろ？
おれは異世界から
きたマレビトで――
わかってる
そのへっぴり腰は
本物

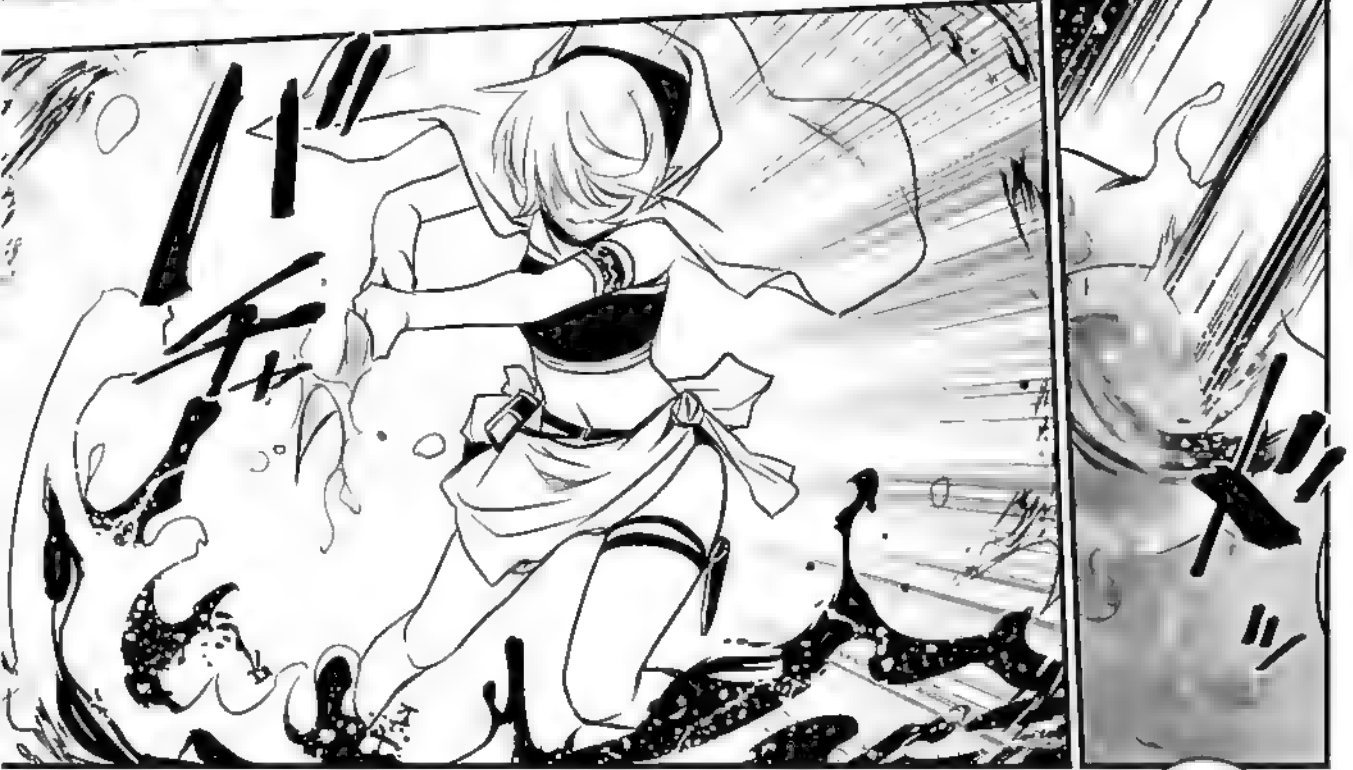
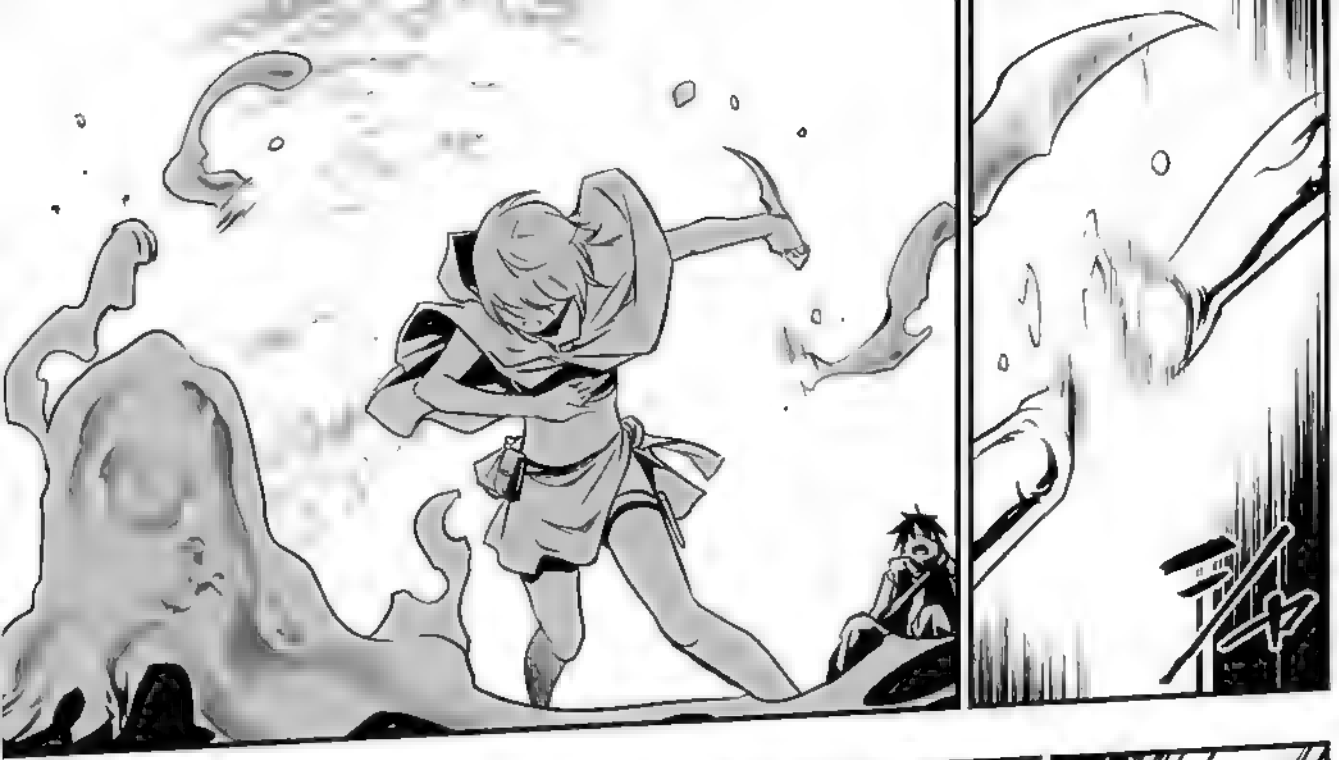
ふー…
剣の稽古
一応始めてるん
だけど――

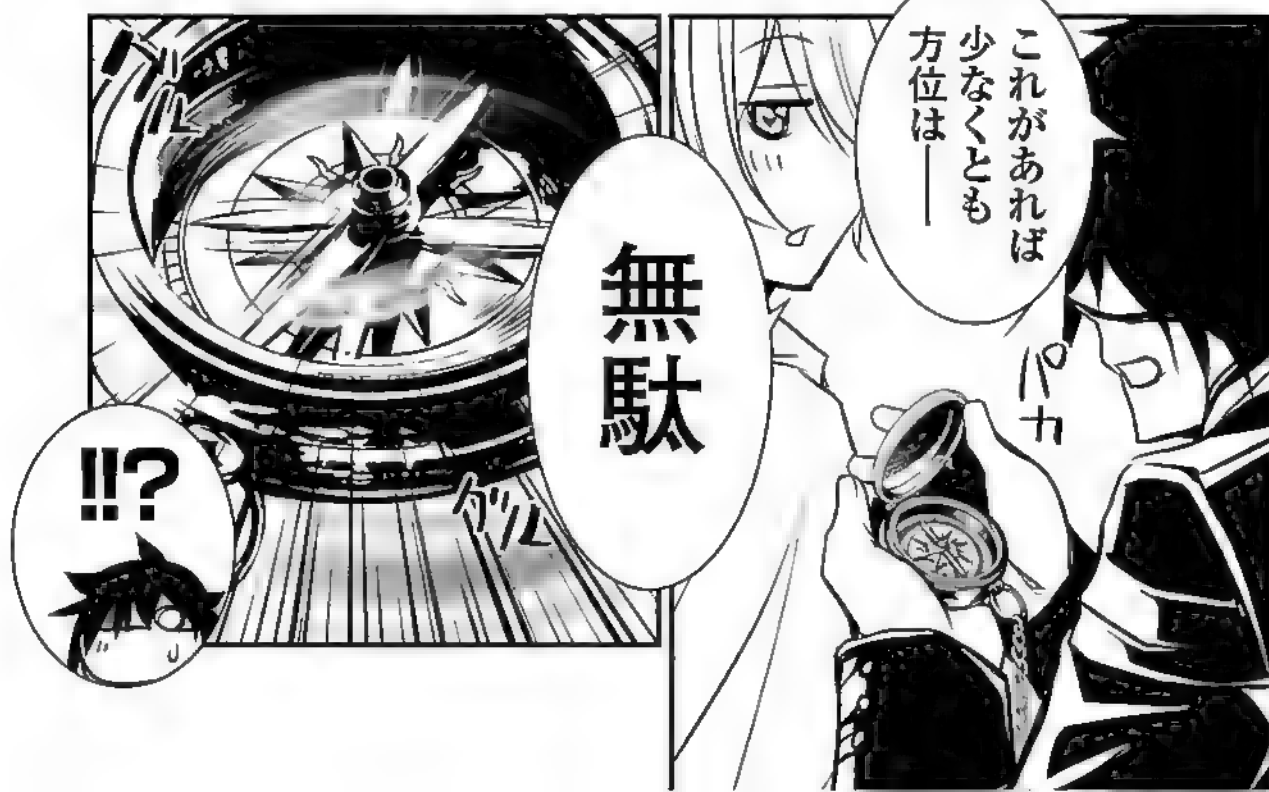
あんまり才能
ないみたいで
でも
あのときは
すごく…
もっ
もしかして…!!
はっ
?

おっぱい
吸わないとだめ…なの？

じゃあ
カイが強くなるには
サクラやドルネアが必要
なんだ…

そう…
実はずっと助けて
もらってたんだ

大丈夫
迷宮のことは
よく知ってる

――サクラたちがいなくても…私が
あなたを守るから
役立たずでごめん

そうだ
?
ガサ
コンパス（方位磁針）だよ
君に頼りっぱなしってのもなんだし
ドワーフ謹製

これがあれば少なくとも方位は――
パカ
無駄
!!?

大丈夫
この迷宮は全部で10階層と言われてるけど
そのうち8階層までは何度も行ったから…
さすが!!
凄腕の案内人って言われてただけはあるね
頼もしい!!

――けど
9階層を守ってるモンスターが強くて
みんなそこでやられるか引き返すかだから…
ゴク…
そこから先へは誰も進んだことがない

でもそれはいま恐れてもしょうがないね
とにかくその9階層まで辿り着けるように頑張ろう
うん……

――そしておれたちは迷宮の奥へと進んで行った
さすがに迷宮の案内人をしていただけあってシエラの足どりに不安はなく

モンスターの巣などは
可能な限り回避して
進むことができた
さらに
非常用の武器や
食料
燃料の隠し場所が
あちこちにあり
俺とシエラは
食い物に困ることは
なかったが――
んぎぎ
保存食の
干し魚は
どこまでも
固く
乾燥イモは
かすかな
柔らかさを
残すが甘味は
ほとんどなく
味気ない
むぐ
むぐ
もく
もく
まあ
食べ物があるだけ
でも感謝すべき
なのだろうけど――
んゴク

そういえばサクラさんたちに何も言えないまま勢いでここまで来ちゃったなあ…
…心配？
何かあったらすぐ逃げるようには伝えてあるし
ああ見えてみんな結構強いからね
無事だとは思うけど…
勘弁して下さいよ
旦那
あの旅芸人の一座には
頼まれたから紹介状を出しただけでさぁ
だが
あの日 街に入っていた余所者はその旅芸人たちだけなんだ
酒場の支配人が言うには
混乱のドサクサで気付いたら全員消えていたという

妙な隠し立てすると
この島で二度と商売が出来なくなるぞ？
隠したりしませんよ
——でも旦那たち来るのが少々遅かったですねえ
どういう意味だ？
兵士たちが噂してたのを聞きつけたらしくてね
あの娘たちなら今頃——

!!?
クモ…いや
カニ!!?
しめた
あれはいい
モンスター
いいって…!?
…やられたっぽい
人たちの遺物が
あちこち散ってる
けど!!?
倒し方を知ってれば
あまり怖くないし
それに――
ナイフを貸して
?

ギギ
ガリ
あれは音に弱いの
音…？
ギャ
ギリ
ピタ

このナイフは〝グランクラム〟っていう…
とても大きな貝の殻で作ったものなの
その貝殻の音を聞くとスパイダークラブはしばらく動けなくなるから
あとは――
これは…小麦粉？
鍋と…塩とかもある
随分豪華なパーティーだったんだなあ
合掌…
パキ
バキャ

ビキッ
な
なにしてるの!?
バキ

はむ
これ
食べられるの

あむ
あむ
ええ…
いいモンスターって
まさか…

そゆこと
少し匂いが
あるけど
それでも
干し魚やヤロモよりは
随分マシ

……
たしかにちょっと
臭うな
ん〜〜〜
スン

ねえ
シエラ
これ
おれが料理しても
いいかな?
料理…できるの?

その間に
干し魚を入れた
鍋を火にかける

五分程度煮る

本当は半日くらい
おきたいけど

この世界の料理では
いわゆるダシを
取る習慣が
ほとんど無く
味は基本的に
ソースで決めるよう
だった

でもおれは
日本人だからね…

いいダシが
出てる
これなら…!!

寝かせてた生地を
もう一度こねて
伸し――
ダシ汁には塩と――
これも遺品から
拝借した乾燥ハーブで
香りをつけ
ここでカニモドキを
投入
ポチャ
そこに小麦粉の
生地を
つまんで千切りながら
ダシ汁に
落としてゆき
ちゃぽん
ぐつ
しばらく煮れば――
ぐつ
ぐつ
――はい
どうぞ
ふぅ
そろ～…
んぷ
干物とカニもどきの
ひっつみ汁

ほあ
…美味しい…!!
よかった
おれはこの迷宮では君に頼りっぱなしだしね
少しは役に立ててほっとしたよ
あなたは父さんやみんなを助けてくれようとした
…私がここにいるのもあなたのおかげ
ちっとも役立たずじゃないから…

そう言って貰えると嬉しいよ

ありがとう シエラ

……

この振動は…

上の層で誰かが戦ってる…!?

もしかして…ダーラの追っ手？

急ごう

ザワ

―第5階層―
ふう…
さ
さすがです
ドルネアさん
……
手出しする
スキがなかった…
ちょっと
やりすぎっぽい
けど
あ～あ…
問題無い

ザッ
——行くぞ
シャクンティーラ様
おかげで
かなりのペースで
進んでいますが…
どうして進む道が
分かるのですか？
昔
いくつかの迷宮に
潜ったことがあってな
構造も
モンスターの
種類も
結局は似たり
寄ったりなのさ

そういうものなのですか……
ほえー
倒し方やトラップの抜け方には一定の法則がある
知っていれば進むのはそう難しくないが――

急ぐぞ
カイは放っておくと無茶をして死にかけるからな

暗いね…
この階層にはいままでみたいな光る天井も明かりもないんだね
―第9階層―

この階層のモンスターは明かりを消して隠れても
必ず侵入者を見つけて襲いにくる
しかもものすごく強くてみんなここで断念するか死んでる
気を抜かないで
わかってる
いよいよラスボスってやつか…
そういえば
いままで迷宮を進んできて一つ気付いたことがあるんだ
……？
どのモンスターも特性さえ把握できれば
力押しじゃなくても抜ける方法がある気がする
それは…そうかも

なら
この第9階層のモンスターにも対処法があるはずなんだ

……!!!

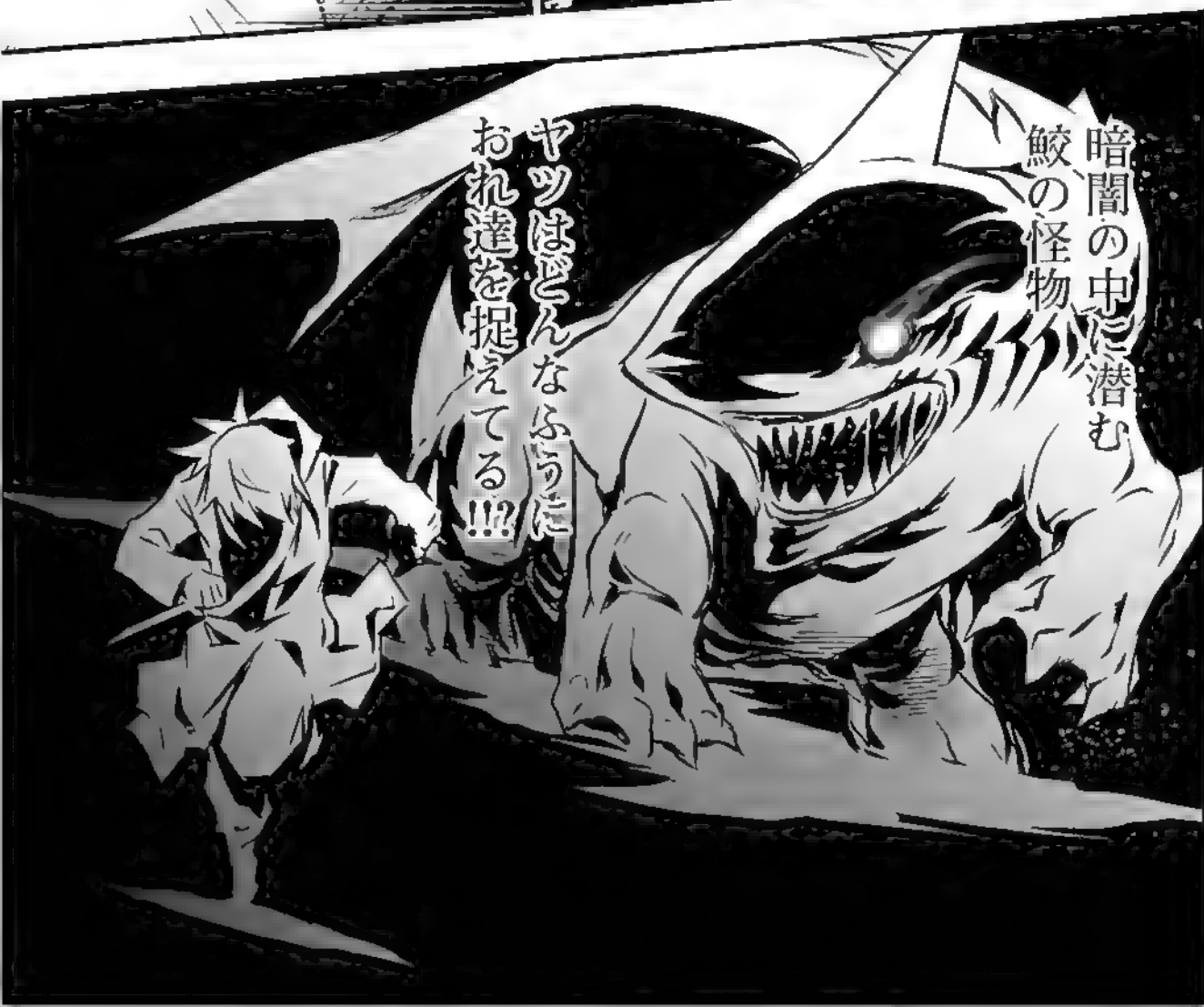
ドッ
バ
カイっ!!!

シエラっ!!!
くそっ
こっちだサメ野郎!!
ドドドド

よし…
なんとか
引き寄せられた!!

明かりを
追ってきてるなら
きっとこれで…

……………!!!

光じゃない…!?
考えろ
考えるんだ
カイ
暗闇の中に潜む
鮫の怪物
ヤツはどんなふうに
おれ達を捉えてる!!?

光でも熱でも
音でもない
振動？
匂い…？
いや――

コンパスの
針が…!!
ギュルル

磁力が
上の階層より
強まってる…？
――!!!

もしかしたら
……!!!

ビク
ピク

うおお
おおお!!!

ドシャ
頼むぞ
最後の一本――

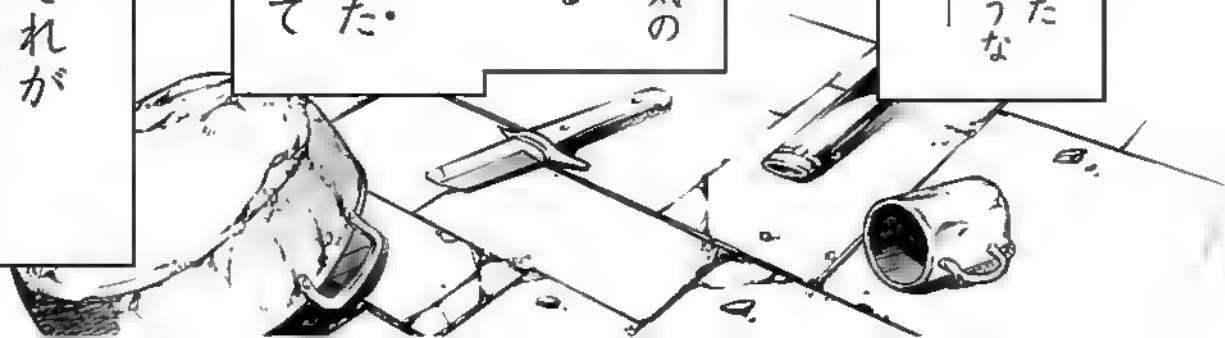
ドチャ
ハァ
やった…
やったあああ!!!
ハァ

ロレンチーニ器官――
鮫の頭部に存在する
感覚器で
100万分の1ボルトという
極小の電位差を感知できる
これで獲物の筋肉が発する
微弱な電流を感知し
捕らえることができると
言われている

その鮫によく似た
コイツも同じような
器官があって――

微弱な電位や磁気の
乱れを感知して
獲物を追っている
んじゃないか

特に
磁気を帯びた
金属を狙って

――それが
俺の賭けだった

これは
誘導員をしていた頃
電気工事士の人に
聞いた話だ

長い間強い磁力に
さらされると
周囲の鉄は磁化して
それ事態が磁石としての
性質を持つように
なるという

たとえば
この迷宮の持つ
強い磁界にずっと
晒されつづけた
剣や鎧のように

——そしてそれは
周囲の磁界を乱す

出血が酷い

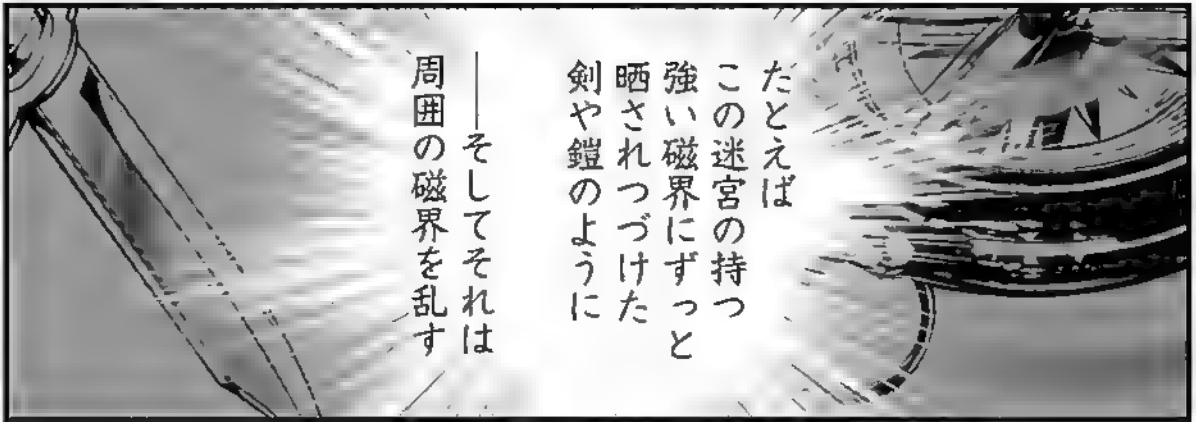
くそっ
どうすればいい？
このままじゃ
シエラは——

上に戻ろう

…無理よ
それより
せっかくここまで
来たんだもの
お願い…カイ

…シエラ

は…いま
何と…!?
ダトラの艦隊を
呼び寄せた
─神話時代の
遺物は
この科学の時代には
邪魔な存在でしか
ない

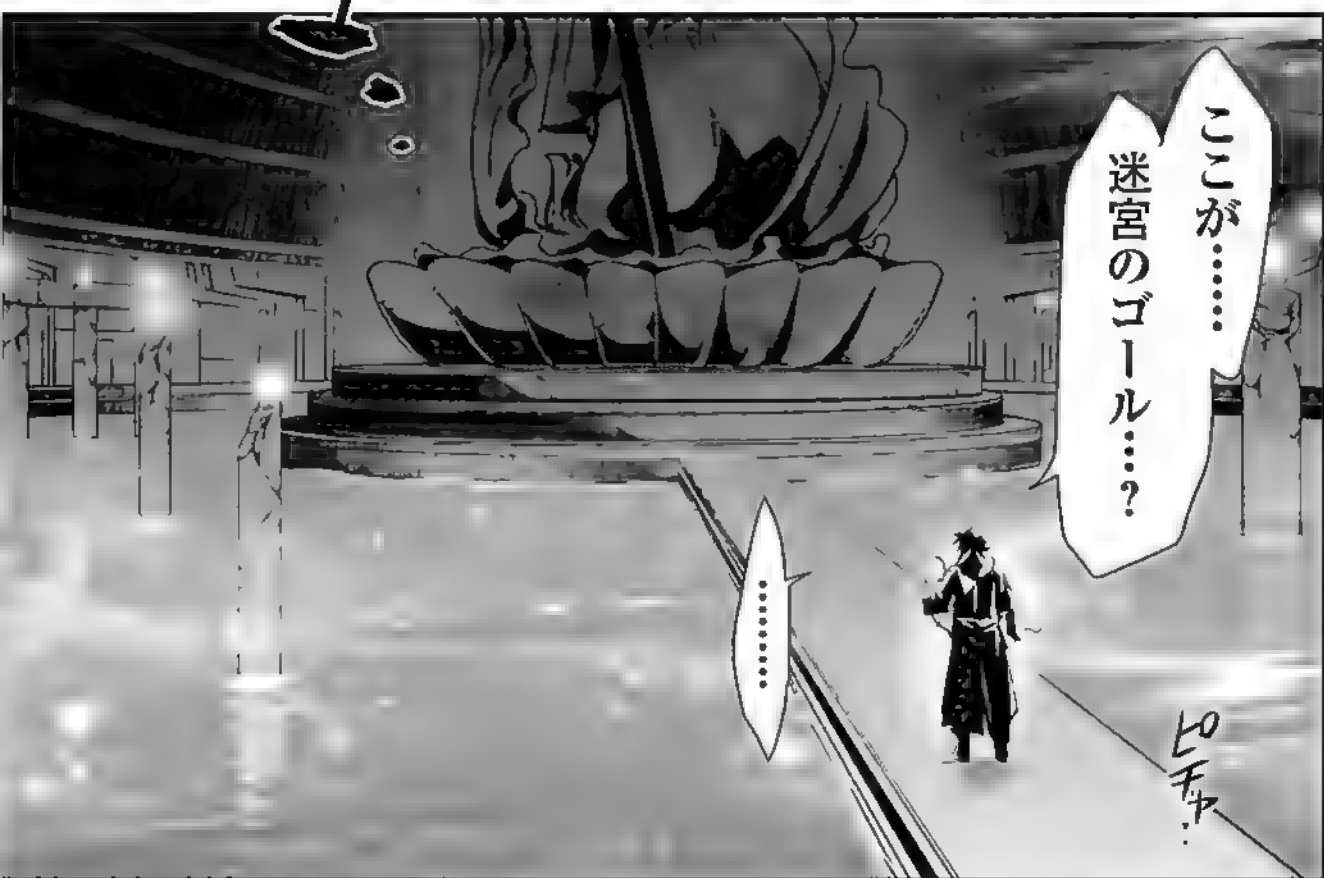
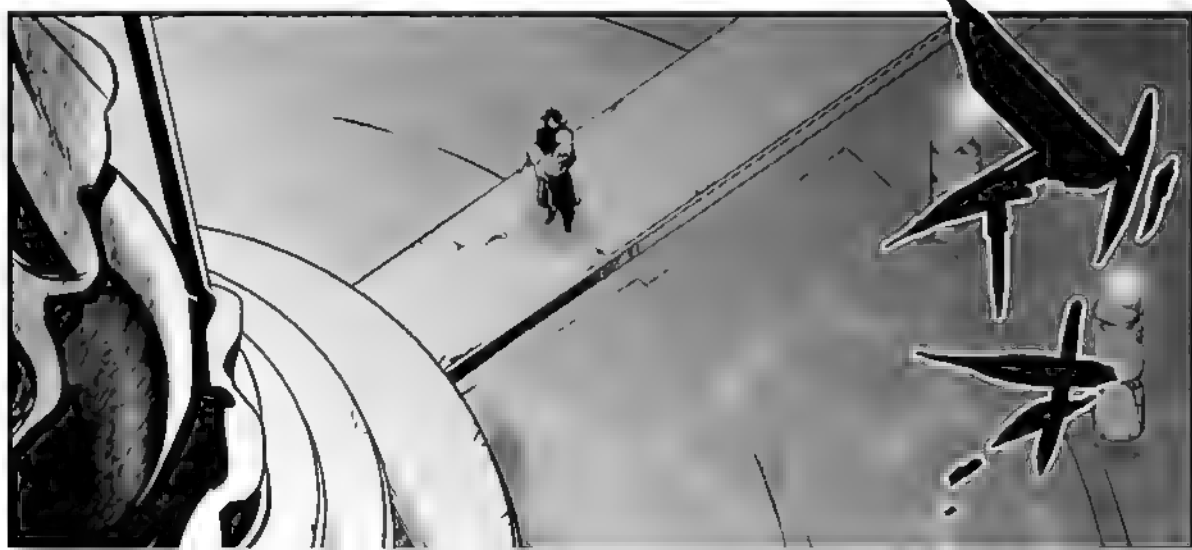
ド
ド
ド
ザ
ザ
ザ

あの迷宮は破壊する
閣下
いましばしのご辛抱を
この最新鋭の巨大攻城砲と共にすぐにお側に駆けつけます――
ドドド

ここが…
迷宮の最深部…
ヒタ
…やっと…ここまで…
ゴッ
ゴゴ
ゴゴ

第18話／蒼海の秘宝

ここが……迷宮のゴール…？

……

ピチャ…

オケア…ノス…
はっ
はぁ
？
母さんが言ってた
……
昔…ネレイデスを
守護してくれた
…海の神さま…
……槍のところは宝石…かな？
海神の三叉槍(トリアイナ)の宝石……
きっとあれが…
〝蒼海(そうかい)の秘宝(ひほう)〟
やっと辿(たど)り着いた…のね…
待ってろ
いまあれを――
秘宝ニ近付クナ…

ソレハ何人タリトモ
触レテハナラヌ 我ラノ至宝……!

ラスボスは あのサメじゃ なかったのか ……!?
一応 拾ってきたけど おれの腕で 守りきれる のか…?

守りきれるか
じゃない!!
守るんだ!!!
来いよ
化け物ども!!!
!!!

くそっ…!!

やった!!

!!?

少佐ッ!!!
!!?

みんな…どうして!?
少佐が迷宮に向かったらしいと聞き及び馳せ参じました!!!
カイさま
この者たちの相手は私たちにお任せください!!!

カイ!!

この状況での
呪乳は無理であろう
そのまま像を
登って蒼海の秘宝を
手に入れろ!!

!!?

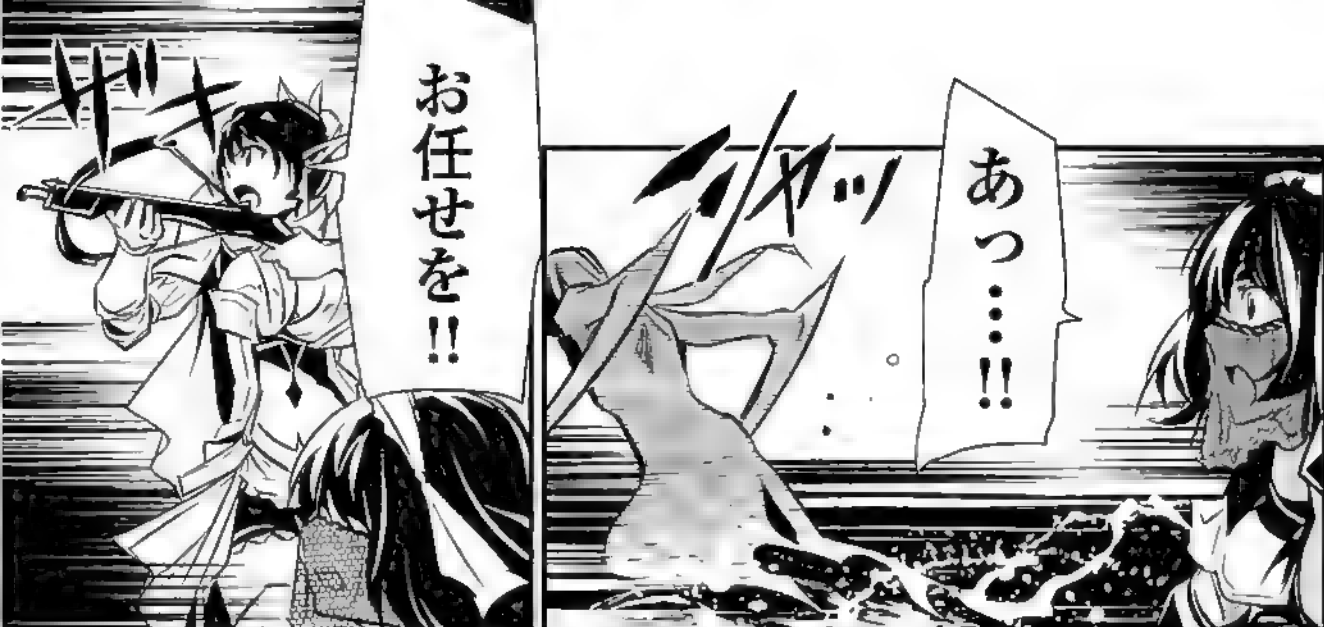
その秘宝こそ
シエラの命を繋ぐ
よすがとなる筈だ!!
!!!

わかった!!
我ラノ神ニ……
触レルナ……
行かせませんっ!!!

あっ……!!
ザシャッ
お任せを!!
ザギ
ビリッ
ドォッ
カイさま!!
危ない!!

ッ!!
……っ!!
くそっ…っ

これは…!!

瓶…？
中に液体が入ってる…

それをシエラに飲ませろ!!
!!
わかった!!

これを飲むんだシエラ!!

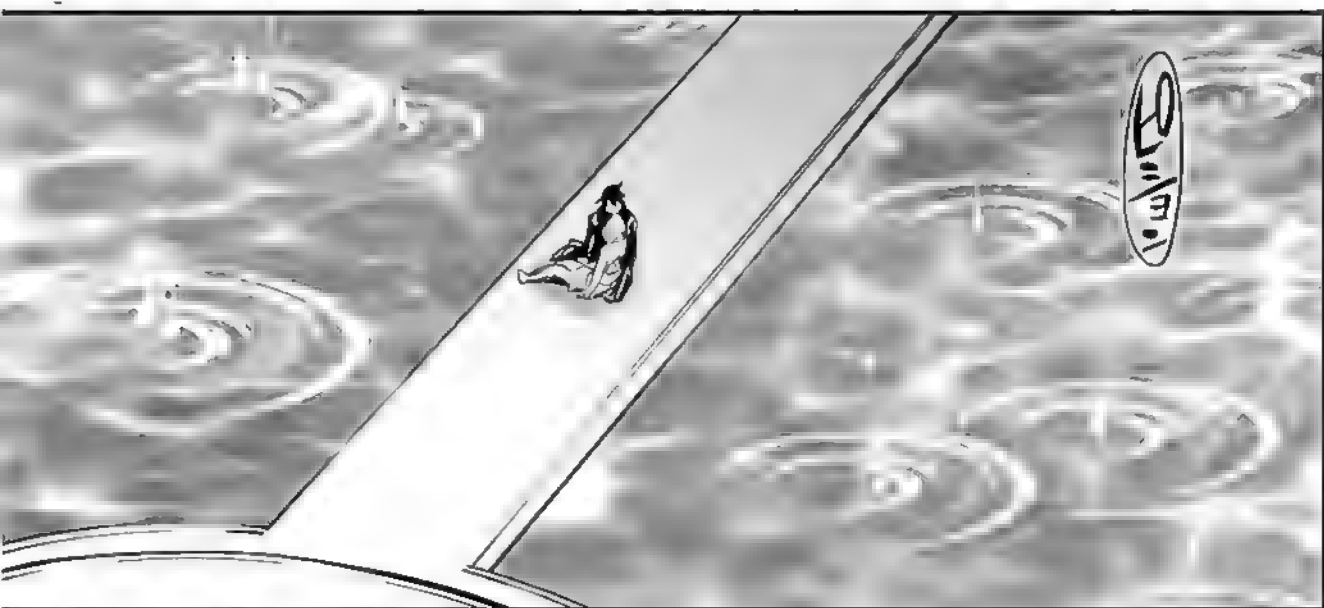
だめだこのままじゃ――
グッ

!!! 少佐!!
カイさま…
……
んく…
シエラ!!
う…
!!!
ドクン

パァアアアア
あ…ああ…
しっかりシエラ!!

ズ…
ジャ…
ズ…
我ラノ…帝国…ニ…
再ビノ…栄華…ヲ…
ピション
ズゴゴゴ
扉…？
地上への帰還用の道だろう
親切なことだ

少佐!!
カイさま!!
みんな・・・
来てくれてありがとう助かったよ

神呪の力もなしによくやり遂げたなカイ

結局
〝蒼海の秘宝〟って
いうのは何だったんです？

〝人魚の血〟さ
ここの領主が
作っている紛い物の
魔薬ではなく
本物の
な

!!!
ガトク殿から
いろいろと聞いた
のです

――新種の麻薬
それがブレドの
収入源だったの
ですね
そのようだな

〝人魚の血〟
とは…古より
いかなる傷も
万病をも癒やし
寿命すら延ばすと
噂された伝説の秘薬
その名に当て込んだ
のだろうがな

しかし
シエラが飲んだ
ものは
ネレイデスの王族の
血が凝縮された…
いわば
彼らの守護神たる
オケアノスの血とも
言えるものだ

…それがなぜ
〝蒼海の秘宝〟と？
いずれ分かろう
!!?
地震…？

違うよ
すごくやな
感じ
まさか——

撃てーーッ!!!
照準!!
10コールほど右にずれたぞ!!
何をしている!!

まだ命中精度は低いようだな
…だが威力は気に入った
各艦に計10門装備されています
その気になれば迷宮など半時とかけず
文字通り海の藻屑に出来ましょう
——承知した
だがとりあえずはあと三斉射後に一旦攻撃を停止兵を上陸させる
兵を…？
報告があった
どうやらあの島には神妃たちが潜入しているらしい
!!!

どの部隊を送り込みますか？

神妃（アンブロシア）がいるなら呪装者と戦闘になる可能性もありますが…

おあつらえ向きの者達がいるだろう

まさか…やつらを？

そのまさかだ

…………
シィィン
砲撃が止まった……？

ミタ
あたし見てくるよ!!

う…

ぴた
シエラ!!
――!!?

おっ降ろしてっ!!
ぐぇ
バタタ

それだけ暴れられればもう大丈夫そうだね
痛いところとかない？
え？
ぺたーん

ハッ
そうだ
わたし…
それにみんなも…!!
どうして…?
落ち着くんだ
いま
説明する
ダーラの船…!!
囲まれちゃってる
…
ザザ
!!

上陸する気だ…!!

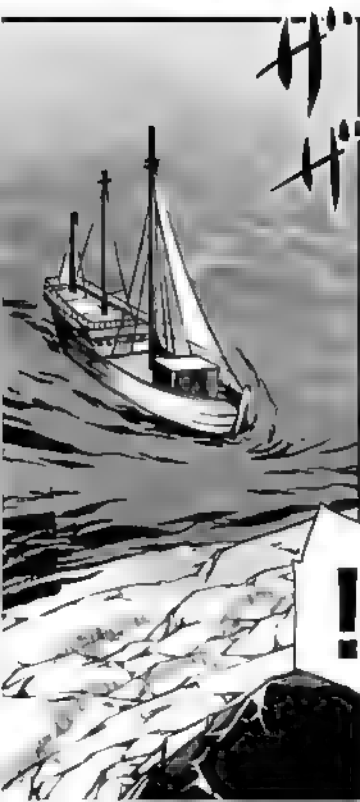
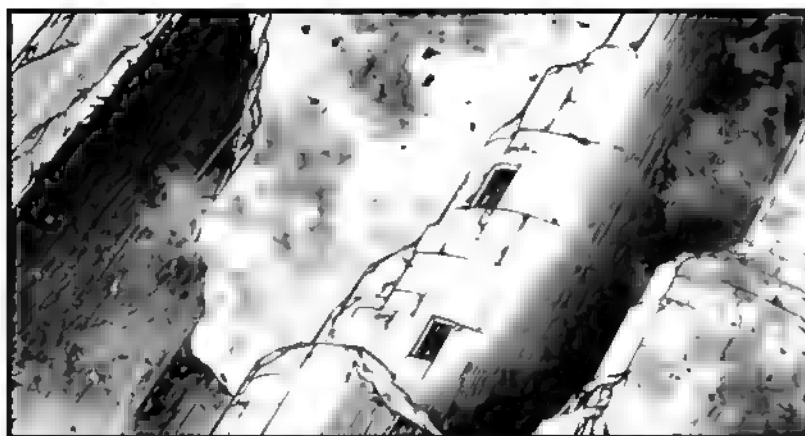
バダァ

接岸しました

バガン

強壮化部隊（インジェクテッド・プラトーン）

出撃します

—強壮化部隊—
麻薬である
人魚の血をさらに
精製した薬物で
一時的に体力強化
された実験部隊
一度の薬物使用で
兵の半数が
再起不能となる

――よし
砲撃を再開
強壮化兵たちの
侵攻に合わせ
島の周辺から
中央部に徐々に
狙いをずらせ
お言葉ですが…
あまり砲撃を行うと
神妃の確保が
難しくなる
可能性が…
それならそれで
かまわん
!?
ダクリス
お前は
科学と神話が
せめぎ合ういまの
世界をどう思う?
…些か
歪さを感じは
しますが…

そう
この世界は歪だ
──科学という名の
新しい神は
万人に公平だが
古の神々の力は
気まぐれで
御し難い
いっそ──神妃も
含め
神代の遺産など
すべて消え去って
しまえばいいと
思うことすらある

ですがそれでは
神妃(アンブロシア)を確保せよ
という元老院の命令に
逆らうことに…!!

それが——
何か問題か?

御意(ぎょい)
砲撃を開始します
閣下

〝蒼海の秘宝〟を
私に…？
そのおかげで
君の命が
救われたんだ
………
もっとも
あの『血』の
効果はそれだけ
ではないはず
だがな
………？
大変だよ
ダーラの兵士たちが
上陸を始めてる!!
!!
ここは…
神呪の力を使った方が
いいかもしれないな

その通りだ
たゆん
私もそう思います
ばゆん
…っ!!

で
どちらにするのだ？
カイさまのいいようになさってくださいませ
え…えっと…
あぅ
ヒュルル
ピクッ

みんな伏せて!!!
砲撃が来るッ!!!

うわああーーーッ!!!
少佐!!
カイさま!!
我々も下に!!
はいっ!!
ぶるん
早くしまってください!!
いや…
カイを悠長に捜す暇などなさそうだぞ

う…

ここは…二階層か三階層の広間…？

結構落とされたみたいだけど…

!!

浸水…!!?

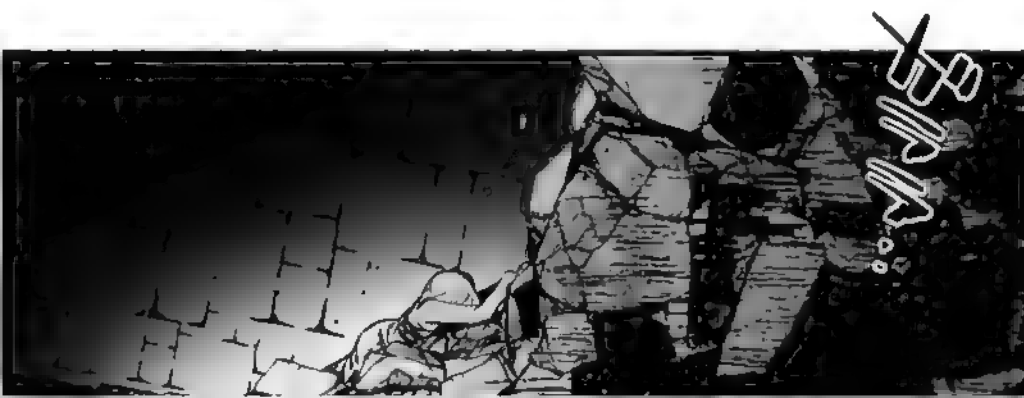
砲撃のせい……!?

このままじゃ迷宮そのものが完全に水没する…!!

カイ!!
カイ!!!
一緒に落ちた筈なのに…
まさか!!
!!!

ギュゴゴ…
水流が…!!!
!!!
いや…!!!

この人を…
絶対に死なせない!!!

ザ

シエラ…⁉
…………‼!

シエラ・・・
綺麗だ・・・

カイ…
シエラの声が…
水の中でも…
わかったの…
…蒼海の秘宝が
本当はなんなのか
…!!
――いま
わたしの乳房には
神が宿ってるわ…

吸って…
一緒に呪われてくれる…？
コロ
ふあっ…!!
んあっ…ふっ…

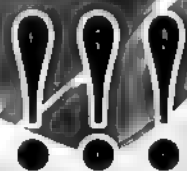
ああ――ッ!!!

第19話／水を統べる者

夢中で彼女の呪乳を貪った

これまで感じたことのない

冷たく透き通るようなその喉ごし

ゴク
ゴク

ただ
唇と舌に感じる
シエラの身体だけが
熱く
甘く――

くっ!!

グアーーーー
……!!
なんなんだ
こいつの力は…!!
はあっ!!!
メキ
メキ
!!?

腕を折ったのに構わず…
ゴゴ
気を付けろ!!
こ奴らはおそらく麻薬か何かを打たれておる!!
まさか…噂に聞く薬物強化兵…!?
なにそれ!?
普通どんな生物も自分の肉体を守るために
本来持つ力の半分も出さない
——いや出せないという

だが
痛みや恐怖を
薬物によって
取り払うと――
自らの痛みも
死すらも省みず
ただ命令を遂行する
兵士ができあがると!!
ガッ
つ!!
ビチャ
ドドッ
くっ…

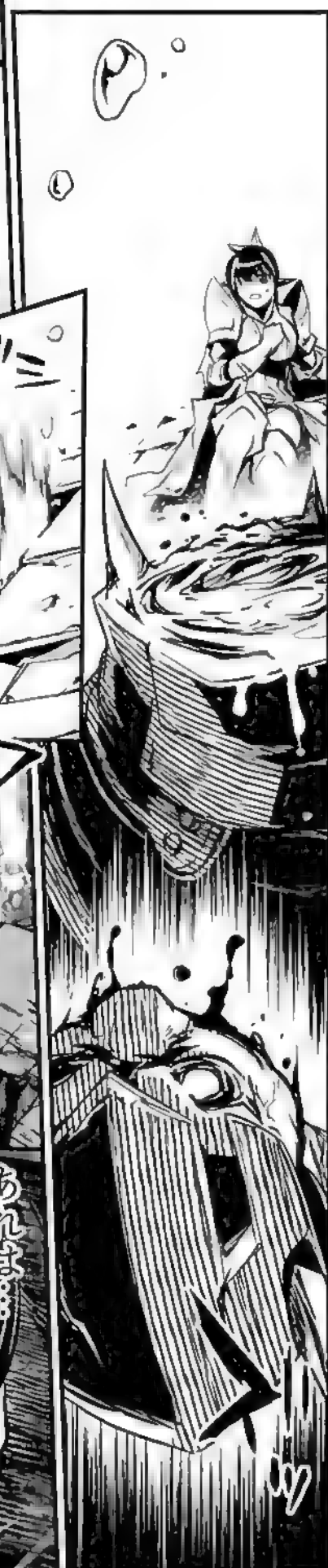
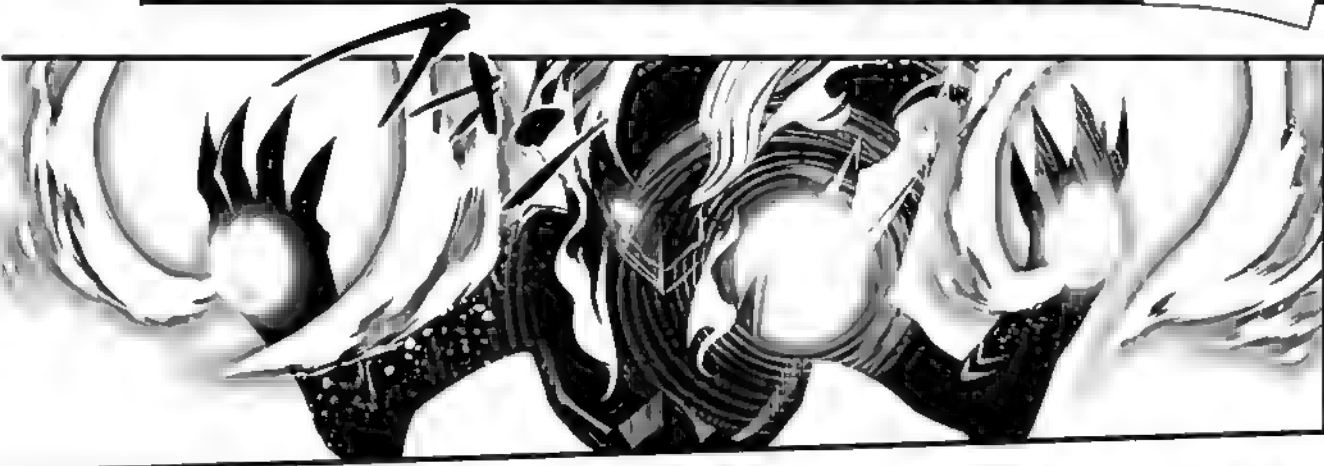
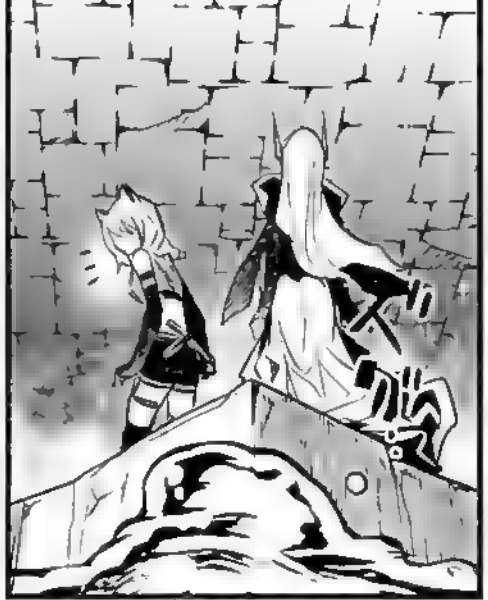
見て
水が!!!
一旦
飛び込んで
逃げますか?
…できれば
いまここでは
遠慮したい
ところだな……
姫さま
なんだか
ご様子が
…!!
少し…長く
表に出過ぎた
ようだ
サクラの体が
限界に近い
──それに
今飛び込めば
……

溺れぬよう
装備も武器も
手放さねば
ならぬぞ
…素手でこの
化け物共と戦えるか?
だがこのまま
ではもう…
…どうする…!?
どうすればいい!?
くっ……

ドパァ
あれは…
まさか──!!
──遅かったな

漸く水帝の力を手に入れたか……！！

少佐!!?
カイさま…!!

ドッ
ブォ

ザパァ
人魚!!?
ニャッ
神妃(アンブロシア)って…
首尾良く種族の血に宿る
神妃(アンブロシア)の力を得たようだなシエラ
じゃあカイさまに呪乳(ネクタール)を捧げたのは
やっぱりシエラさんなんですね
ザン
はい…

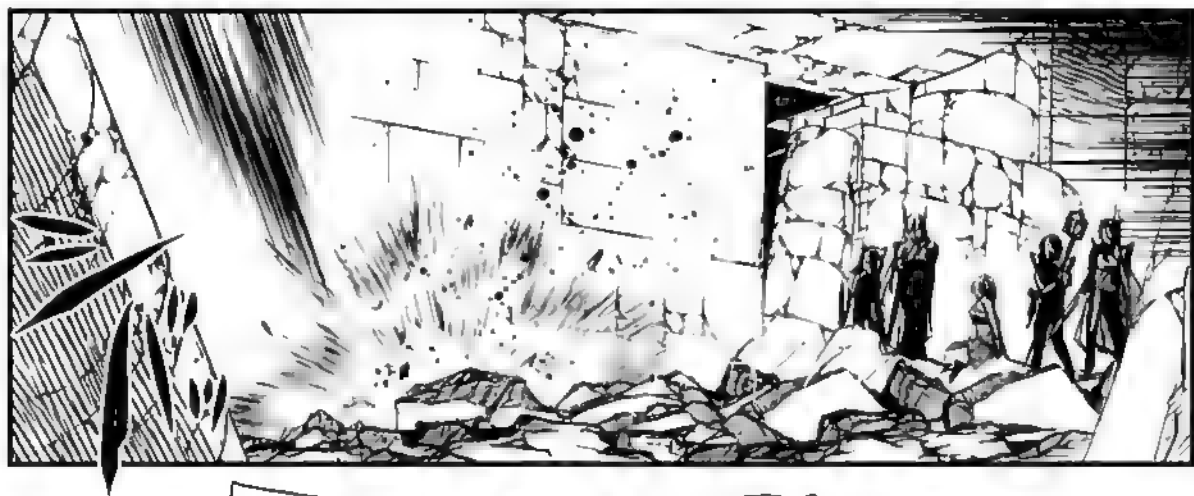
わあ
流石(さすが)です
少佐・・・
砲撃が続いてる
……
カイ
お願いがあるの
あの砲撃を
やめさせて!!

この迷宮を破壊されては困るの…
私たちネレイデスのために！

これでひと安心か
あとは任せたぞ
…ネレイデスの女王
……よ
シュウウウン
シャクンティーラさま!!
…大丈夫
気を失ってるだけ

と…

行かなければならないところがあります

皆さん
ついてきてくれますか？

おかしい…
どうした？
強壮兵たちの姿が全く見えないんです
——あれだけの数を放ったのに
もう一人も…
!!!
兵がやられています!!
それもかなりの数…!!
……
まさか…本当にあの偽グレイが神妃と接触した…？
ギ
大尉 迷宮に人影が!!
何!!?

中央のドーム様建築物付近です!!
女…?
貸せ
羅刹の娘にドワーフのメスか…
——おそらく神妃だな
!!
あの様子では強壮兵たちは全滅だな
捕獲はもはや難しいか
!!
では…!!
砲撃しろ
ドッ

ゴゴゴ…
ガゴゴ
砲を装備した
全艦に告げる!!
照準変更!!
島の中央の
ドームを狙え!!
外すなよ!!
命中させた者
たちには
褒美をやるぞ!!!
一番艦
三番艦
七番艦
発射準備完了
とのことです!!
閣下

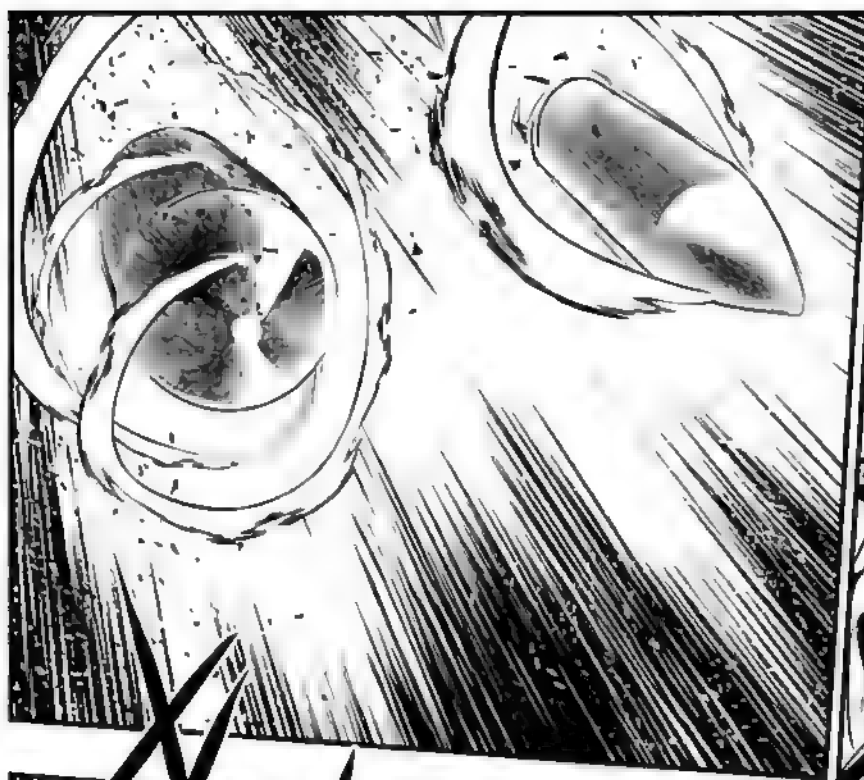
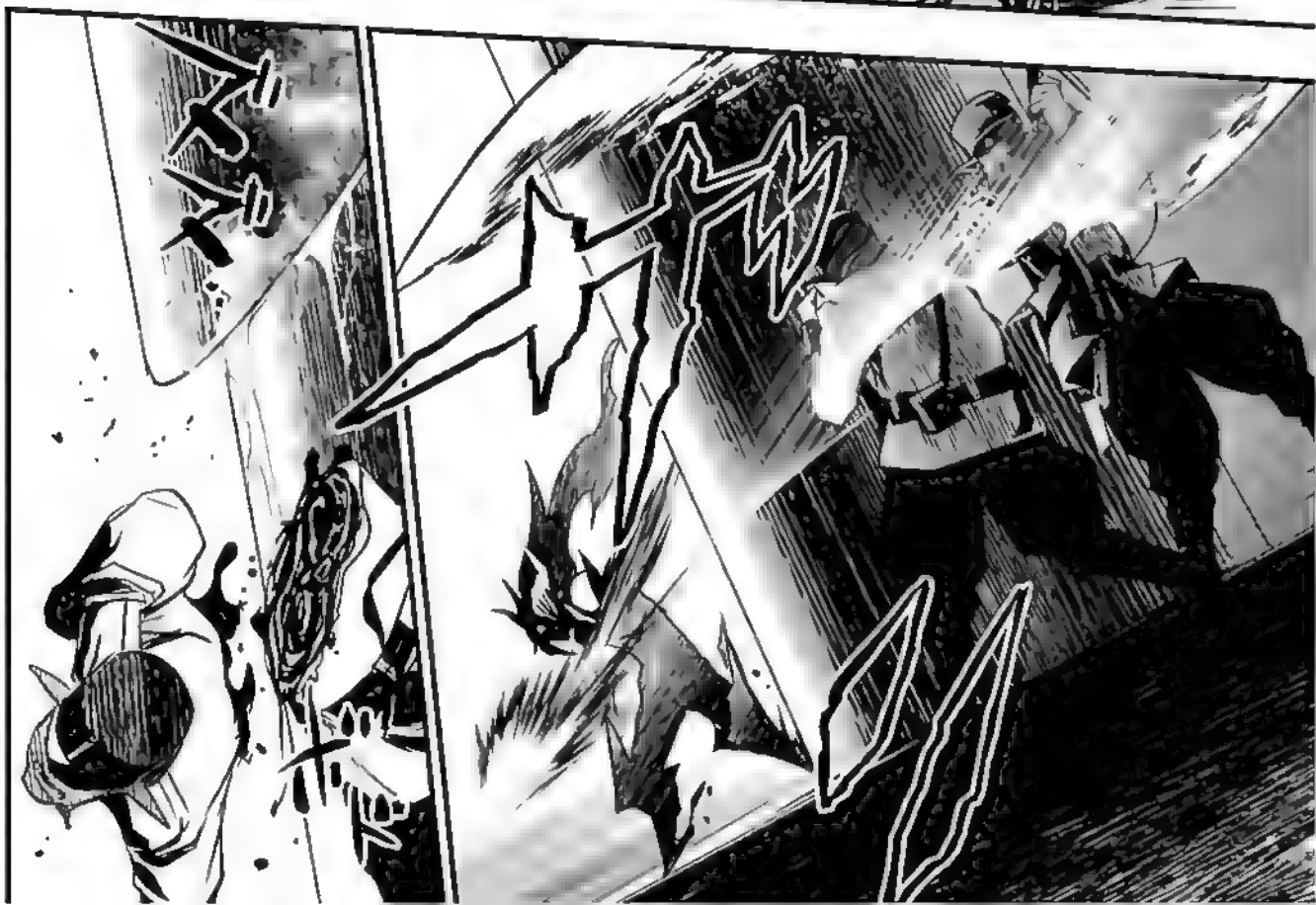
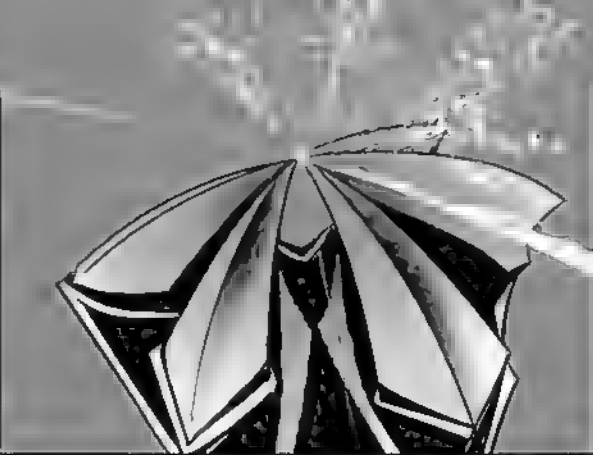
撃て
!!?

11時の方向に津波です!!!

!!?

あれはまさか…!!
呪装者(じゅそうしゃ)…
あの偽者か──!!!

くっ
銃だ
撃――…

くそおっ!!

うわあああっ!!!
ウォーターカッターと
呼ばれる工作機械が
ある――

高圧をかけた水を
吹き出すことで
様々な物を切断する
ことができるそれは
超高圧で噴出口を
0.1㎜にまで絞った場合
焼きを入れた
鉄鋼すら
切断するという――

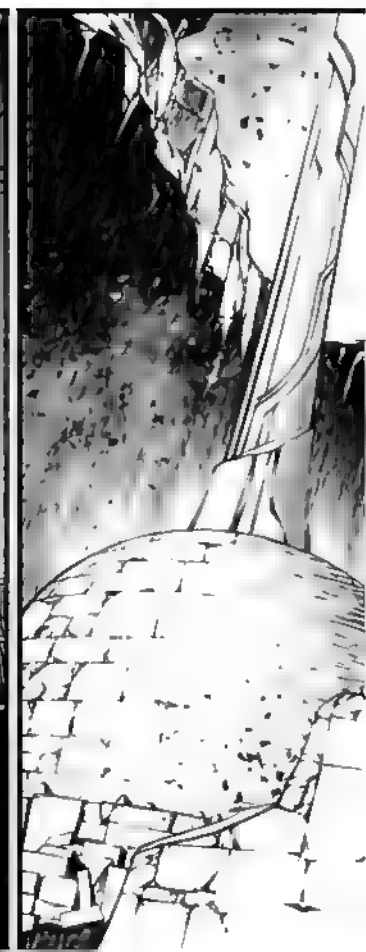
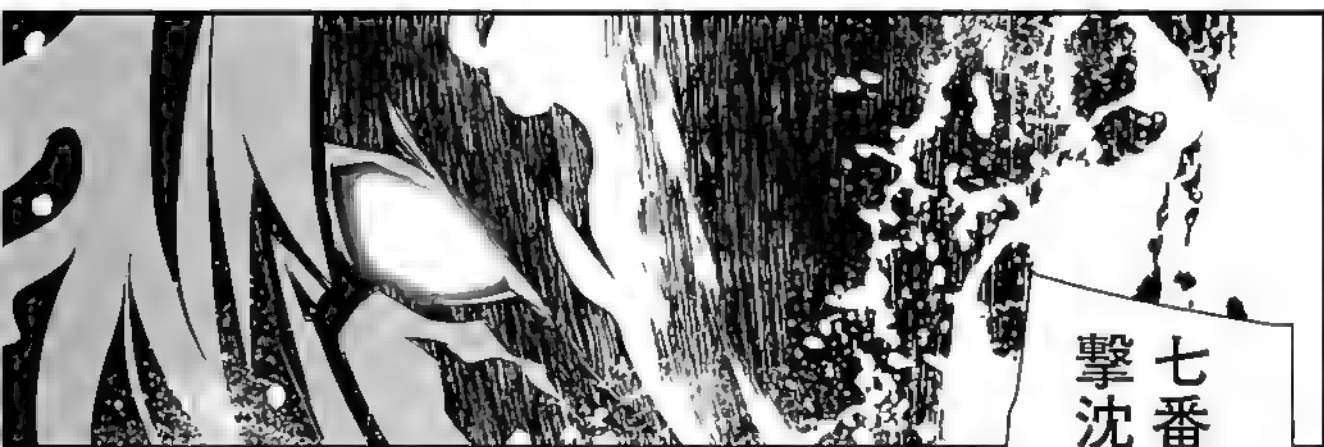
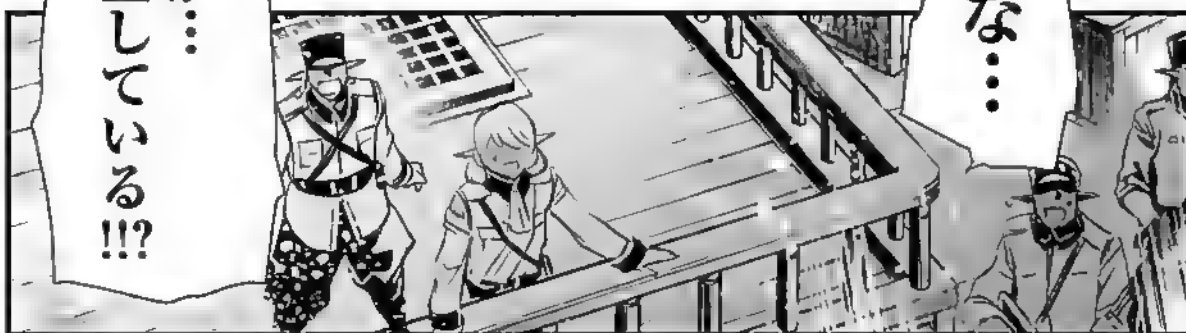
ドドド
ドド
三番艦が沈没します!!!
馬鹿な…!!
神呪の力か…
何と忌まわしい……!!

玉座…？
ス

ブァァ
わ…!!
ポァ

スルル

砲撃!?

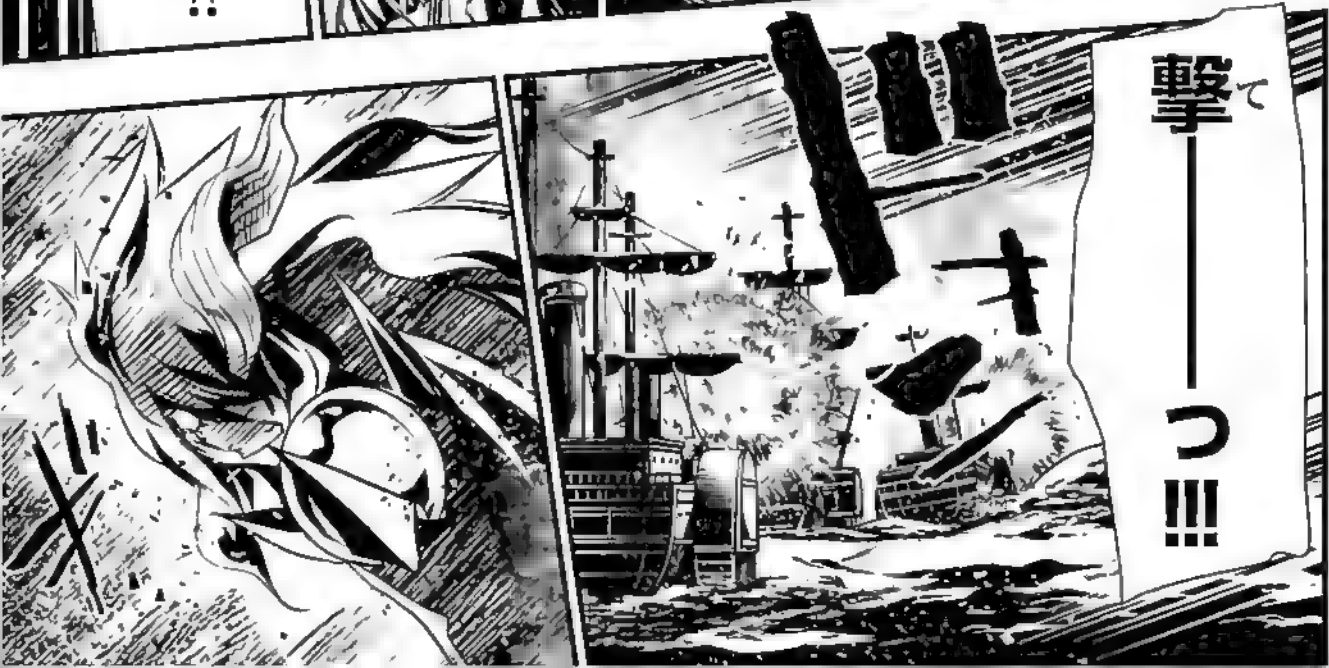
いや…違う
これは
島そのものが
揺れているんだ!!

七番艦も撃沈させられました!!!
何だ!?
波が…島の方から……?

ドゴゴゴ

な…

島が…
浮上している!!?

〝迷宮〟はそのほんの一部
いつか時が過ぎ
ネレイデスの正統な後継者が
その最奥に辿り着くのをずっと待っていたのです…
ゴゴゴゴゴ

海底が隆起して
そこに
ま
街が…!!!
か
閣下
すぐに
離脱を――
待て
迷宮を取り巻く渦に
隠されてたのはこれか…!!

――これを操作しているのは
おそらくあの光るドームだ
生き残っている攻城砲搭載艦に告げろ!!
退避せずにあのドームを潰せ!!
そうすればこの馬鹿騒ぎは治まる!!!
次弾装填急げ!!
は…はい!!
五番艦装填完了!!
撃ちます!!

ドドドドッ
ズズッ
くそ…っ外したか
装填急げ!!次こそ当てろ!!
ドッ
ガッ
!!?

……来たか

………

閣下!!!
バッ

ぐわぁっ!!!
ドシャー

…神呪の力——か
実際
大したものだ

いま浮上しつつある
街も
古の神の力に
依るのだろう——
圧倒的だ
畏怖すら
感じる

——いままで
神代の力は
滅んでも構わない
と思っていた
だが
貴様とあの迷宮を
見て考えを変えたよ

キュイイ
その力は全て――
絶対に消滅させねばならないとな!!!

!!!?
ジジ‥

ガッ…
なぜ…そんなモノが…
神々の力が人知に計り知れぬというのであれば
人の力たる科学の頂点もまた――
神々には計り知れぬものだ

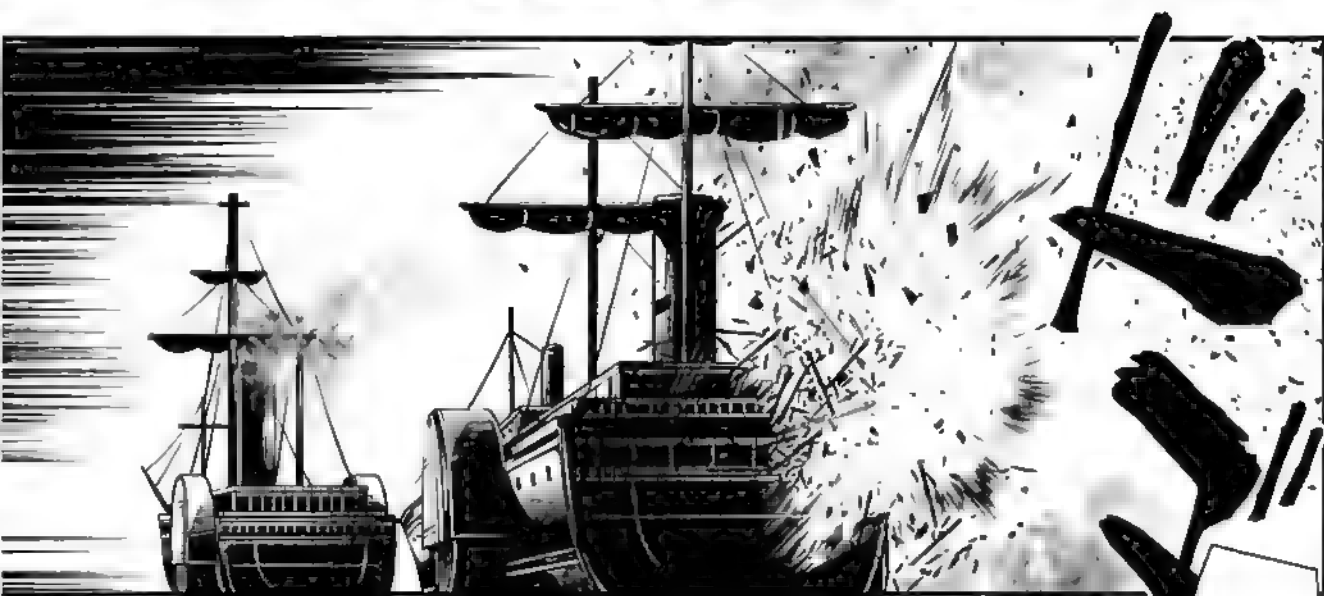
ならば私は
人の力を信じる
グラ
閣下…!!
生き残りに
砲撃を急がせろ
もうあまり
時間がないぞ——
ドボン

な…!?

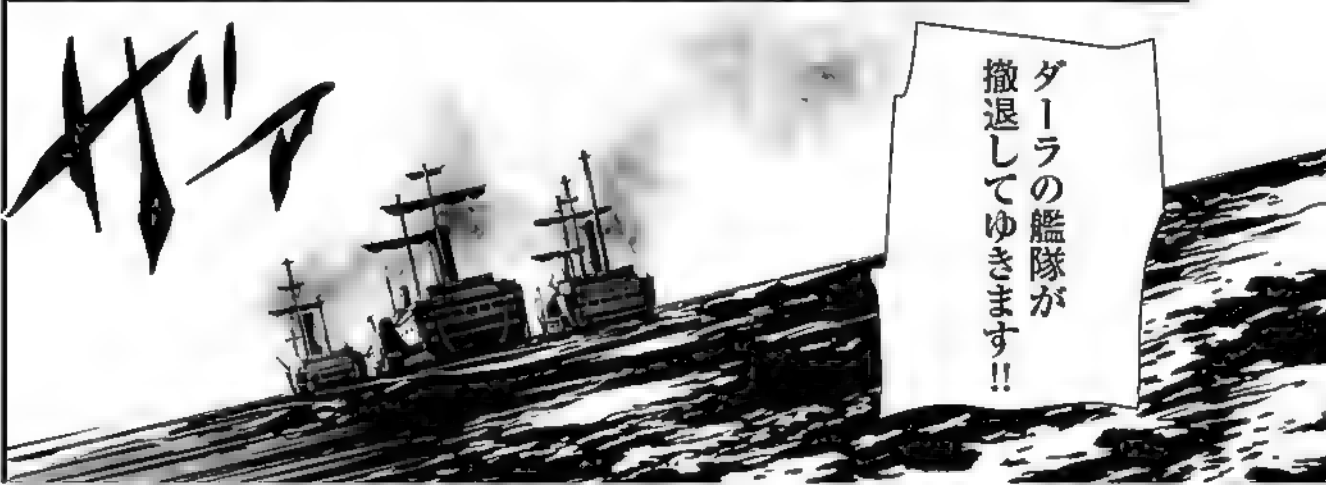
艦砲射撃か!?

ザザァ…

あれは…

ドドォォ
アルビオンの船です!!!

第20話／新たなる船出

あれはおそらく…
アルビオンの
マラガ駐留艦隊旗艦
『ホルトハース』…
最近就航したと
聞く新造艦です
──閣下
応戦を!!
お待ちください!

続く艦影が!!
10…25…いや…
──30隻以上の大艦隊です!!
アルビオンめ…!!
どうします…一旦島まで退きますか?
──いや
このまま撤退し島は放棄する
!!
あの数…退けば島ごと我々を包囲するつもりだろう

リュカ・ローシェルか…
覚えておくぞ
………
ザリァ
ダーラの艦隊が撤退してゆきます!!

どうします殿下
おいかけて
ぶっつぶしますか
いや
島から追い出せれば
充分だ
それより
速やかに
ネレイア島に
船を接岸
兵を上陸させ
占領しろ
了解です
──せっかくこの
『ホルトハース』の
実力をご覧戴く
チャンスだったん
ですが…
残念ですなあ
それは
いずれな
内火艇(ランチ)を
出せ
調子に乗って
海に落ちた部下を
拾わねばならん

それなら内火艇を出すまでもありませんな
お頭!?
殿下の前だ大佐と呼べ
ディアスめ…相変わらず海賊気分が抜けてないようだな

ドドド
殿下
浮上した迷宮に
誰かいますぜ
どうやら
この騒動の大本は
あそこらしいな…
大丈夫ですか
お頭!?
遺跡が
すぐ下まで
浮上して来てる!!
全速で離れろ!!!

ガバッ
…よくやった少佐（グレイ）
だが詰めで手酷い（ひど）
しっぺ返しを
喰らったようだな

――その後の
ネレイア島の
扱いについては
かなりの部分を
俺の裁量に
任されることに
なるだろう

細大漏らさず
報告してもらうぞ
――はい

殿下
遺跡が顔を
出しますぜ

感想は？
……‼

撃たれた甲斐が…あり…
…ました…
ガクッ

おっと
ドサッ
……気を失ったか

軍医を呼べ
必要な手当は全て行うようにと
は

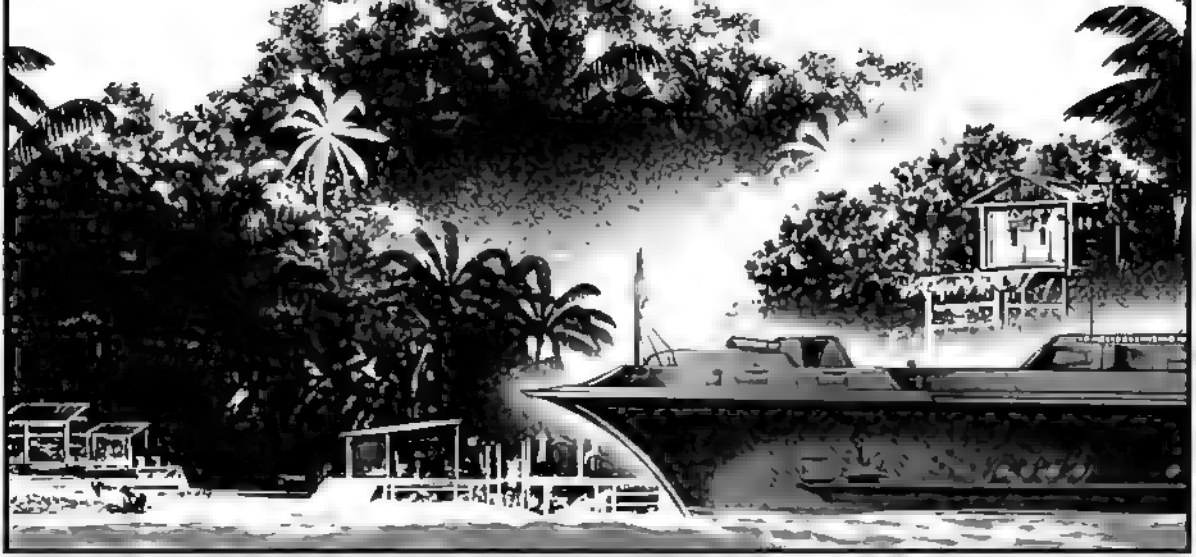
さて
いろいろ忙しくなりそうだ

ん……

サクラさん…
……

心配かけてごめん…
…でも
こうしてもう一度
君たちの無事な顔を見られてよかった

はいっ!!

――じゃあ
やっぱりあれは……
未来の武器なんですね
おそらくな

マレビトの召喚は
時空を超越し

いつも同じ時代から
召喚されるわけでは
ないらしい

どの時代
どの国から召喚されるかは
完全にランダム――

つまり
おれのいた時代より
未来から呼ばれていることも
充分にありえるのだという…

だが悲しいかな
進みすぎた技術は

今の俺たちには
複製はおろか
原理すら理解
できないものが多い

本国のアカデミーにも
いくつかそういった
分解すらできず
機能もさっぱり
判らないモノが
眠っているそうだ

貴様のような
マレビトのもたらす
知識は
神々の力に頼り
科学の進歩を
怠ってきた我々に
もたらされた福音だと
いう者がいる

――あるいは
破滅をもたらす
罠ともな

お前はどちらだろうな？
カイ

………

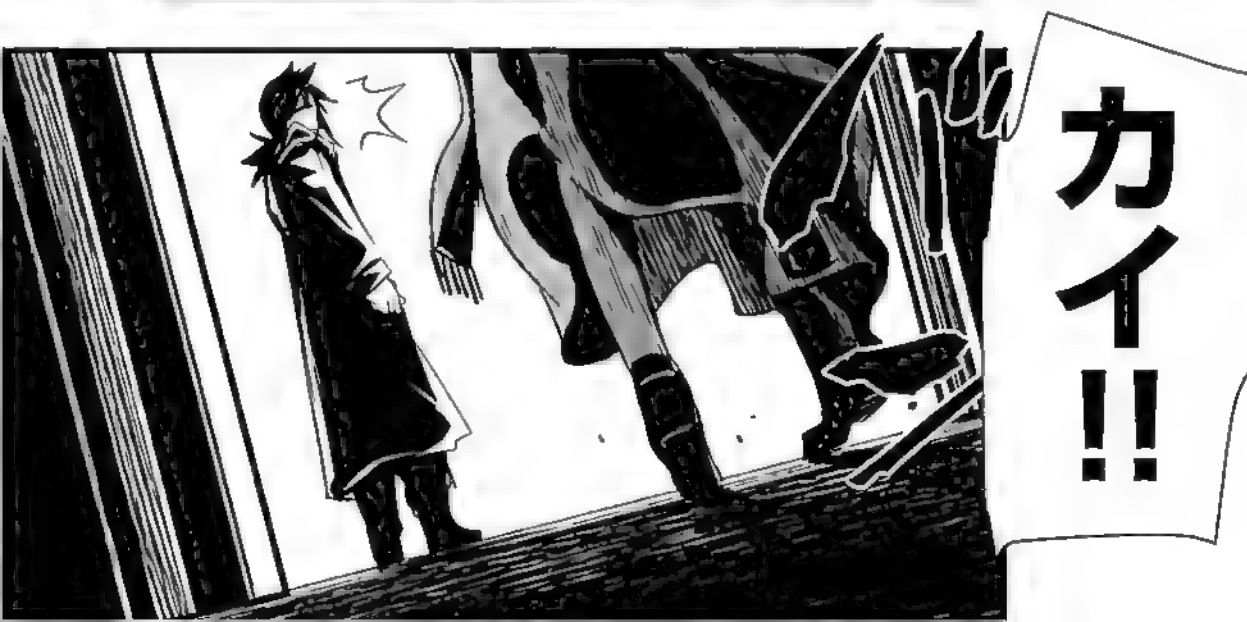
カイ!!

シエラ…！

本当によかった…
無事で…

泣かないで
…おれはほら

このとおり
大丈夫だから

……はい

お見舞い…遅くなってごめんなさい
やらなければならないことが沢山あって…
聞いたよ
——ネレイデスの女王になるんだってね
ゴク
……
それが一番いいだろうってリュカ殿下が…

これが海に沈んでたのか…
すごいな

みんなあなたのおかげ

ネレイア島は
リュカ殿下の率いてきた
マラガ駐留艦隊により
占領され

ダーラの兵や関係者
たちは捕縛もしくは
追放となり

そして
この迷宮を浮上させた
事を身分の証として
シエラは
ネレイデスの女王
となり――
〝ネレイド王国〟
として独立を宣言
――但し
当面の間は
アルビオン王国の
保護領とするという
協定が結ばれた

綺麗だ・・・
うん
これを貴方に見せたかったの
――それとあともう一つ
?

かなり深くまで降りてきたけど…
ここは？

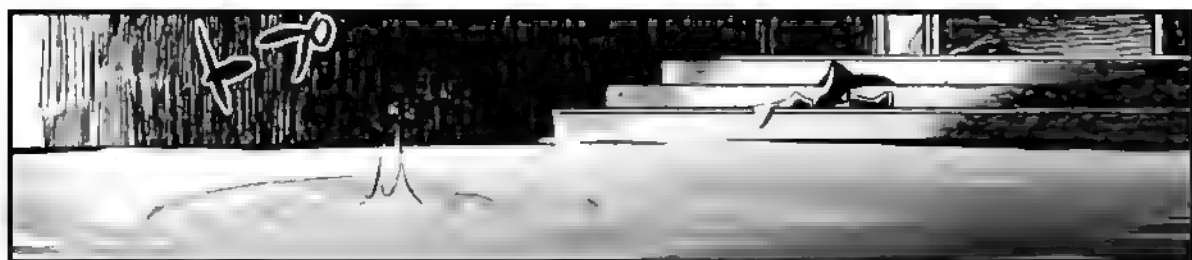
この迷宮都市の最下層よ

シュル

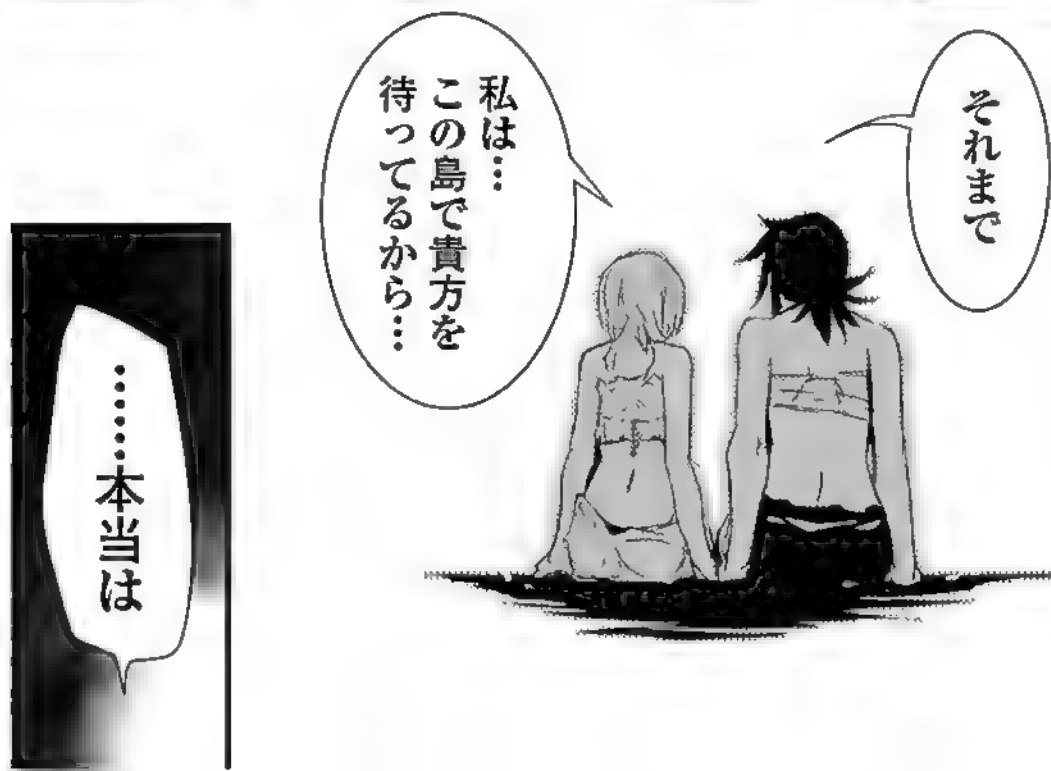
へえ…
こんなところが…
って!!?

慌てないで…
シっ
シエラ!!?
ザザ
……!!
パァァァ

ザブン
カイ
あなたも来て

ザ
さあ…
ゴポポ…
見て…

かつてタリアーデ海を支配したネレイド帝国で使われた

神々の船…

この船のことはリュカ殿下も…もしかしたらシャクンティーラさんも知らないかもしれない…

…!!

でも
いきなりこんな
大艦隊が俺のだと
言われても…
もちろん
使わずにすめば
それが一番
でも
忘れないで
私もこの船も
いざというときは
貴方の為に戦うわ
それまで
私は…
この島で貴方を
待ってるから…
……本当は

シエラ…

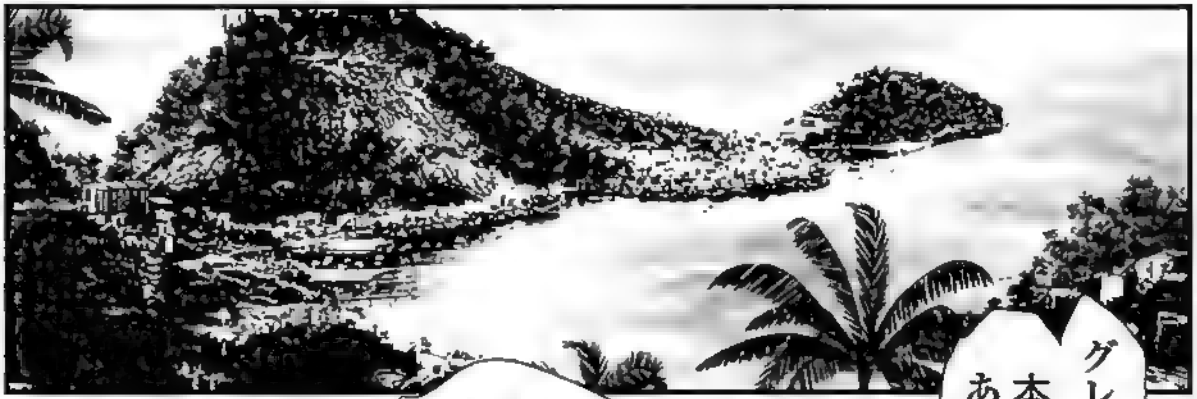
でも忘れないで

…その…

女王になった
以上

いつか――

世継ぎを作れと先祖の霊たちに言われたんだけど…
その相手は貴方しかいないから
よ世継ぎぃ!!?
カァァァァ
私と一緒にこの島の王様になってなんて絶対言わない
でも私の子供の父親になるのは

カイ
貴方しかいない
そう
決めたから…

グレイさま
本当に…本当に
ありがとうございます!!
もう汚い海に潜って
貝を採り続けて
死ぬしかないと
覚悟してたのに…
グレイさまは
我々ネレイデスの
救い主です!!

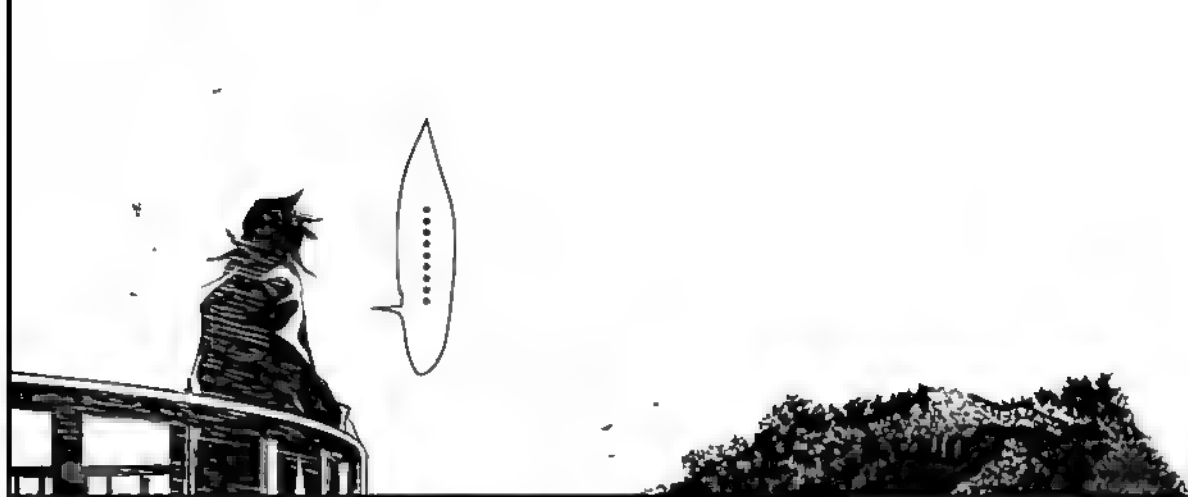
グレイ少佐
我らネレイデスの民は
貴方に永遠の
忠誠を誓います
この島を
ご自分の領地と
思い
いつでも
お戻り下さい——
どうにも
大袈裟だが…
皆の感謝の
気持ちは
有り難く
戴いておく
チャ

ワァアアア
ネレイド王国に栄光を!!!
〝ホルトハース〟出航する!!!
ドザァ

………

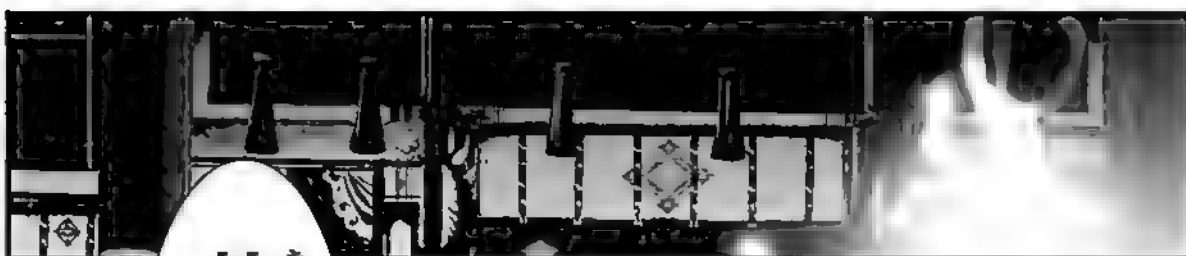
名残惜しそうね
カイ

違いますよ
おれ
本当に嬉しくて
………

元居た世界じゃ
要らないヤツ
扱いされた
おれみたいなのが
……

あんなに
沢山の人に感謝される
ことがあるなんて…
本当に
夢みたいだと
思って…
…………
沢山じゃなきゃ
ダメですか?
え?
ぷす
やっぱり
カイは鈍感です
私だって…ずっと
カイには
感謝してるん
ですから…
サクラさん…

さて殿下
我々はこれから何処（いずこ）の海へ？
一旦カーセルに戻り俺は下船する
その先お前たちは——
東方の辺境——ヤシマノ国へ向かえ

教母(きょうぼ)様

八部衆(はちぶしゅう)が一人
ギル＝ガーラ

氷姫(グラキエス)シズナと
共に
只今戻りました

…どわあふ相手に
随分と苦戦を強いられたようだが

無事に戻ったこと嬉しく思うぞ

我ら〝はさす〟の為に
死んでくれ

【強壮化兵（インジェクテッド・ソルジャー）】 薬物によって兵士を強化する、という発想はかなり昔からあり、遡れば、各部族の神々が庇護下にある部族などに与えたとされる、麻酔作用や精神作用をもつ植物などを戦闘時に摂取したことにまで遡るという。この一種の儀式的・呪術的な行為は、科学の発達に伴い、それらの植物から有効成分を抽出・凝縮することが可能になったことで、より能動的かつ効率的に、薬物の効果で兵士の力を底上げする方法の研究へと発展していった。現在では様々な薬物が開発され、中でも『人魚の血』と呼ばれる麻薬をベースとした薬物が非常に有望とされているが、薬物強化は兵士の肉体や精神を蝕むことも多く、兵士への薬物使用そのものを禁止している国もある。

【石油】 神呪世界において現在主流の動力機関は蒸気機関であり、その燃料となるのは石炭である。石油は、現時点ではランプの燃料などに用いられるのみだが、石炭で動く蒸気機関は小型化が難しく、近年では、石油の燃焼力を動力に生かすことが出来ないかという研究が盛んに行われており、一部の国家や企業はその将来性に着目、油田開発などに着手している。そのため、もし石油による効率的な動力機関を開発できたら、その国家、あるいは個人は莫大な力と富を手にするだろうと言われている。

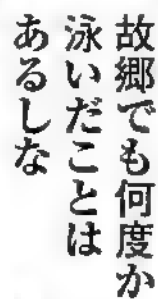
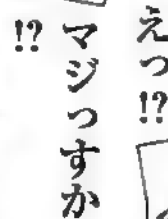
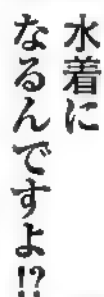
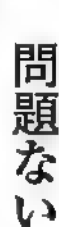
Nectar
of divine
curse

ザザザァァン
—ジンガ—
ガランドアへの
入り口となる港街
——その日
我々の部隊は
ドワーフの神妃を求め
グレイ少佐が
ガランドアに向かう
任務の途上で
ジンガに上陸していた
ザザ
俺たちは
明朝の列車で
ガランドアに向かう
その間 大尉は
サクラ姫たちと
このジンガで待機して
いてくれ
それから
長旅だったし
今日の午後は
皆に休暇を
やってくれ
了解いたしました
特別編／リギアの休日

俺は少佐と行っちまいますが
部下共の統率は軍曹たちに任せてありますんで
ズバッ
心配しなくても大丈夫だ
実は――
私ことリギア・クラッツはこの待機の期間中に実現せんと胸に期しているものがあったのだ
それは
部隊の兵士たちの人心掌握!!!
いつまでも皆に舐められて少佐に頼りっぱなしではいられないからな!!
そういえば皆は午後の休暇をどう使うと言っていた?
ああ
ジンガは海が綺麗なので有名ですからね
皆海水浴に行くと…
!!!
ギュバーン
チャンス!!!

私も付き合おう

えっ⁉ マジっすか⁉
水着になるんですよ⁉
なに問題ない

バァァァ!!
うおぉおぉ

た…大尉も
姫も
よく思い切りましたね…
この海はジンガの神域で
水浴は宗教儀礼だから民族衣装以外は着られない――
そう言われたら仕方あるまい
?
カァァァ
ばゆ〜ん
さあカイよ
グイ
ガランドアの新しい神妃を娶るというなら今のうちに妾に奉仕せい
いいな?
さすがっすね姫さま…
グズグズするでない
はいはい
少佐が見てても堂々としてるし……
……

まー話に聞いた
呪乳の授かり方が
ホントなら
今更照れたりは
しないでしょうが
……
そうだな
私ももし
神妃だったら
姫のように
もっと少佐の
お役に立てたの
かもしれないが…
残念だ
!!!
……?
アランによれば
このとき兵士の
大部分は
ニア殿から話を
聞いて
呪乳の実際を
知っていたらしく
ザワッ
ドヨッ

後ほど
兵たちの奇妙な反応を
不思議に思い
姫に呪乳の方法を
尋ねた私は
この発言を
激しく後悔する
ことになるのだった
――
なっ…
乳房を…!!?
吸われるのですか!!?
少佐にっ!!?
※イメージです。

フフ…
汝も試してみるか？
中々よいものだぞ？
ち…
む…む…
さわ…
リギア大尉は少佐に吸われたいらしいぜ
ああ…
カッコイイもんな少佐
健気だぜ…サクラ姫がいるのに
まあでも少佐なら仕方ねえ
なあ
姫には到底敵わねえかもしれねえが
せめて俺たちだけでも大尉を応援しようぜ!!
おう!!
ガッ
──ということで
この海岸で見せたサービスとグレイ少佐に秘かに想いを寄せる健気さが荒くれ兵士たちの心に刺さり
リギアは一気に兵士たちの信望を得る訳だが──
お…おぱ…
同情とも言う…
うん
それが彼女の望んだものだったかは不明である
『神呪のネクタール』第⑤巻／完

あとがき

前巻から数ヶ月のご無沙汰です。
『神呪のネクタール』第5巻、手にしていただき本当にありがとうございます！

×　×　×

最近つくづく、現実が軽々とフィクションを越えて行くことが多くて驚かされます。プラス方向にもマイナス方向にも。

中学生棋士が未曽有の連勝記録を打ち立てたかと思えば、怪我から復帰のオリンピックで連続金メダルを獲得するスケーター、二刀流でメジャーリーグに乗り込む野球選手に、日本人初、わずか二十歳で四大大会勝利するテニスプレーヤーとか……、漫画や小説のプロットとして提出したら、編集さんから「リアリティなさすぎですよ」と突っ込まれそうな素晴らしい選手たちが次々現れたかと思えば、マイナス面では——被災された方々には心から哀悼を表させていただきますが——次々襲い来る台風による洪水や、さらには地震などからの災害など、自然はこれでもかと人類に苦難を与えます。

平成末期は、まさに〝てんさい〟が目立った時期として皆に記憶されそうだ……などと思ってみたりするわけです（←だれが上手いこと言えと）。

×　×　×

ともあれ、『まさに事実は小説より奇なり』。——だったら、もしかしたら異世界に転移しておっぱいを吸ってヒーローになるのもあながち夢物語ではないのかも……などという夢想を励みにしつつ（笑）、佐藤さんも私も全力でがんばって行きますので、応援よろしくお願いいたします！

長月某日　吉野弘幸

チャンピオンRED
コミックス

神呪のネクタール⑤

2018年11月1日　初版発行

著　者　吉野弘幸・作
©HIROYUKI YOSHINO 2018
佐藤健悦・画
©KENETSU SATO 2018

発行者　石井健太朗

発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

ISBN978-4-253-23830-4

デジタル版　2018年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com